

# 1月26日 第8回「ごみと水を考える集い」開催

名古屋市港区 藤前会館

官・民合わせ37団体92名参加  
ごみの生まれのない社会めざす7項目アピール採択



〈挨拶〉

〈記念講演〉

〈特別報告〉



藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 坂野一博実行委員長が呼びかけ5団体を代表して挨拶。



四日市大学千葉賢教授が「ペットボトルを中心に漂着ごみの現状」の話があり、研究室の浅井さんと張さんが「伊勢湾のマイクロプラスチックの現状」を話して頂きました。



中部大学上野研究室の伊藤良さんが、漂着ごみ動静を定点カメラとドローンの写真を解析して報告して頂きました。



〈話題提供1〉



東京からPETボトルリサイクル推進協議会の秋野卓也専務理事が参加頂き、回収率が84.8%と世界の中で、高い回収率になっていると紹介がありました。

〈話題提供2〉



遠く沖縄県から「うらそえ里浜ネットワーク実行委員会」の田邊治通副会長が参加頂き、自治会が一体となって「浦添市西海岸：西洲～カーミーゼ(空寿崎)周辺」の里浜保全の活動を紹介して頂きました。

〈話題提供3〉

事務局から、後世の海を「マイクロプラスチックの海」にしないための話し合い・交流会を呼びかけ「セブンイレブンのリサイクルプロジェクトを紹介しました。

聖カピタニオ女子高等学校から16名参加



瀬戸市の聖カピタニオ女子高等学校から16名の参加があり、代表の生徒から2月〇日にオアシス21で開催されるイベントにマイクロプラスチック問題で出展すると報告がありました。

〈司会〉



司会は村上誠治さん(土岐川・庄内川源流の森委員会)

〈アピール〉



アピール提案は神郁子さん(藤前干潟守る会)

〈まとめ〉



まとめは井上祥一郎さん(奈佐の浜プロジェクト委員会愛知県会議)

## シシ汁・おにぎり交流会

思那のシシ肉を藤前干潟守る会の佐野さん達が調理してくれました。今年は加えて、坂野実行委員長の藤高(藤前の側)で収穫されたお米のご飯とおにぎりも出ました。上下流がコラボした料理でした。参加者は名刺交換・意見交換し、5時前に堀川まちネットの中島副理事長のメでお開きとなりました。



第8回ごみと水を考える集いよびかけ5団体 ★土岐川・庄内川源流の森の健康診断実行委員会★藤前干潟クリーン大作戦実行委員会★四日市ウミガメ保存会★22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会★NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター

2019年1月26日(土)、名古屋市港区藤前の藤前会館で「第8回藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」を開催しました。愛知、岐阜、三重3県の27市民団体等と10行政機関等、37団体92名(参加団体裏面に掲載)が参加しました。河村たかし名古屋市長、岡島充典愛知県河川課長(大村秀章愛知県知事代理)、西修国交省庄内川河川事務所長、水原健介環境省中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課長の四名から激励のご挨拶を頂きました。

「集い」では、記念講演に四日市大学環境情報学部工学博士の千葉賢教授が「漂着ごみとマイクロプラスチック」と題して、9月の二つの台風による「高潮」により、庄内川、新川河岸に漂着した大量のペットボトルの販売年度をPETボトル協会の協力を得て調査した結果、20年以上前のペットボトルがあったと話がありました。一端漂着ごみになると何十年先にマイクロプラスチック危機が来ることを知りました。また、15年間の藤前干潟グリーン大作戦により50万本以上のペットボトルが回収されていることも成果として報告頂きました。特別報告の「藤前干潟のヨシ原調査の報告」では、ごみの漂着がヨシ生育の障害になっていると報告されました。PETボトル協会・秋野専務理事、沖縄浦添市のうらそえ里浜ネットワーク実行委員会田邊副副会長等3件の話題提供で、ペットボトルや清掃活動への認識を深めました。

四つの交流会では、短時間でしたが「ペットボトルを漂着ごみにしない為に何をやるのか!」を話し合いました。まとめの全体会で四人の座長が、マイボトルの携行、デポジットなど具体策等も含めて多様な意見があったと報告がありました。「第8回ごみと水を考える集い」からのアピール(裏面)を採択しました。

恒例の「シシ汁交流会」は、庄内川最上流で獲れた「シシ肉」と藤前(藤高)で獲れた「ご飯・おにぎり」を美味しく頂きながら交流しました。今回もシェフは藤前干潟を守る会の佐野さん、坂野さん、佐藤さんでした。交流会のメは、ヨシ植栽実験結果をまとめて頂いたNPO法人堀川まちネットの中島副理事長のお話でお開きとなりました。

## 〈来賓:お忙しい中、駆けつけて激励頂きました。〉



河村たかし  
名古屋市長



大村愛知県知事代理:岡島充典建設部河川課課長



中部地方整備局庄内川河川事務所西修事務所長



中部地方環境事務所:水原健介廃棄物・リサイクル対策課長

## 四つの分散・交流会でワークショップ

今回で4回目となった分散開放式の交流会は、4会場で官民の参加者が一緒になって「ペットボトル漂着ごみをなくすには!」とワークショップ方式で話し合いました。その結果を中部大学の4座長が全体会場で報告しました。この取組は、翌日27日、中日新聞県内版で写真入りで大きく報道されました。



※本取組は、公益財団法人河川財団(河川基金)の助成で実施しました。